

I. 活動の背景と目的

1994年から3年間、行政はヴォーリズの功績をたたえてイベントを開催しました。広く市民の方々と交えてヴォーリズ委員会なる組織を設立し、「W・M・ヴォーリズ」をテーマに新しいまちづくりをしていこうという気運が高まっていました。その一方で、ヴォーリズの象徴である建物は、老朽化して朽ちていくばかりでした。

そんな時、朽ちていくヴォーリズ建築である旧郵便局舎を何とか救ってやりたいと数人の有志が集まり、まず、この建物を元の郵便局舎があった頃のように蘇らせようと活動しはじめました。それが「一粒の会」の始まりでした(1996年)。

その後、会はNPO法人格を取得し、会員総数100名を超えるまでに成長しました。設立当初は、ただ朽ちていくヴォーリズ建築を何とか救ってやりたいという一心だけでした。大掃除からはじまり、建物の一部解体撤去、雨漏れの改修、ホールの壁と床の改修へ進み、現在では絵画の常設展示や明かり展、講演会といったイベントができるまでになりました。

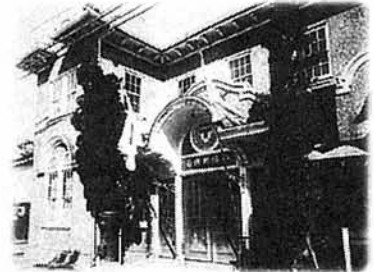
改修を進めるとともに会のもうひとつの目的であるヴォーリズ建築を通じてコミュニティの育成にも力を入れてきました。滋賀県下でのヴォーリズ建築の調査(県からの委託:2000年度)では、そのまちの方々と交流を通してヴォーリズ建築の良さを再認識していただき、その後互いの交流が深まりました。

また、ヴォーリズ建築スケッチツアー&スケッチ展では近江八幡市内のヴォーリズ建築を見てまわり、すきなところで絵を描いてもらい、その後スケッチ展を開催し、多くの方に参加いただきました。

さらに、今年度からヴォーリズサロンを開催し始めました。このサロンは、ヴォーリズの知り合いや現在ヴォーリズ建築に住んでおられる方に語り手となってもらい、くつろいだ時間の中で交流を深めることを目的に開いています。

II. 活動の内容

一粒の会も大きくなるにつれて、活動範囲も広くなり、周りからの要望も多くなってきました。法人格取得後は、会が活動しやすいように改修部会、イベント部会、事務局(広報部門)と3つの部会に分けました。



かつてのファサードが特徴的な
旧八幡郵便局舎



ヴォーリズ建築のスケッチ展



ヴォーリズサロン

改修部会は、雨漏れ等の大掛かりな改修を終えた後、自分たちでできる範囲で改修しました。材料を会費の中からねん出して、休日に集まって改修しました。電気工事や大掛かりな工事は、知り合いの業者に依頼しました。次に中庭の整備を行いました。会員と一般の方と一緒に汗をかくことも目的でしたので、改修はイベントとして一般の方にも告知して参加を募りました。



改修の様子

イベント部会では、サロンを中心にヴォーリズファンや市民、会員との交流を企画しました。(詳細は会のホームページに掲載 <http://www.ex.biwa.ne.jp/~hitotubu/>) 昨年7月からはじまったサロンも回数を重ねるごとに参加者が多くなってきました。2ヶ月に一度の開催でしたが、旧郵便局舎がマスコミに取り上げられたこともあり、多くの問い合わせに四苦八苦するもありました。

広報部門は「VoriesMeeting」という季刊誌を発行していました。ホームページを開設するまでは、会員への唯一の情報源でした。今年度は、会費の目減りもあり予算不足から、一回のみの発行となりました。もっと多く発行したいのですが、作成しても発送できないというジレンマが occurred。

その他、チラシは事あるごとに作成しましたが、協力いただける機関への配布や旧郵便局舎玄関の展示スペースに告知掲載となりました。



改修が進んでいる内部

Ⅲ. 活動の効果と今後の課題

今回、H&C財団の助成金事業でパンフレット(1,000部)とパネル(A2サイズ×4ヶ)を作成いたしました。加えて情報の発信基地としてホームページを開設しました。

パンフレットは初版につづくもので、有志ではじめた頃からNPO法人格を取得し現在に至るまでの活動をまとめました。パネルは一見して会の概要がわかるようにイラストや写真を多く取り入れました。どちらも会のPRにはなくてはならないものです。パンフレットは来館された方に活動の趣旨をより理解してもらい、浄財をいただけるよう活用しています。

パネルは東京と大阪でアンテナショップづくりの拠点として常設展示に活用しています。東京はすでに神楽坂のギャラリーにお願いしています。



作成したパンフレット

今後とも、旧郵便局を拠点に改修していく予定ですが、多額の改修費用がともないます。現段階では自主財源を会費収入に頼っていますが、昨今の経済情勢の折り、会員数の減少による資金の目減りは余儀なくなってきました。旧郵便局を改修していくために新たな改修費ねん出が必要となってきました。

また、専属の事務局員を雇用し、常に旧郵便局を開館してい

たのですが、やはり、費用の面で無理があります。現在、地元の会員を中心に当番制をひいて、週一回開館するのが精一杯です。

今後の予定として、2005年はヴォーリズ来日100周年になります。アニバーサリーとして事業を企画しています。

その事業に向けて、ファサードの復元とトイレの新設を予定しています。ファサードを元通りに復元できれば、旧郵便局を商店街のランドマークとして活用していただけます。また、周辺に公設トイレがないので新設することで、観光客や多くの市民の方にコミュニティースペースとして、憩いの場として旧郵便局を使っただけだと考えています。今回の改修にあたっては、実行委員会を設けます。特に今まで関わりのあった大学生を中心に改修実行委員会を開き、新しい感性で改修していきます。

最後に、これまで一粒の会の活動を通じて、多くの方のお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

旧郵便局の改修も牛歩のごとく、地道な歩みではありますが、着実に進めてきています。

時代は環境と再生の時代であります。まさしく一粒の会がめざす、人にやさしい建築の保存再生こそ時代にあった活動ではないかと思えます。



現状のファサード



現在の事務所

<団体活動データ>

■特定非営利活動法人 ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会

活動テーマ	「ヴォーリス建築を活かしたコミュニティづくり」情報発信事業
活動目的	ヴォーリス建築の保存・再生を通して、その精神を活かしたまちづくりを行うこと。
設立年月	1998年7月
代表者名	石井和浩
活動地域	滋賀県近江八幡市
メンバー	17名 建築士、会社経営、商店経営、市議員、研究員、公務員等

●団体設立の経緯

1994年の市制40周年記念事業「ヴォーリス顕彰シンポジウム」で実施された軽井沢の見学会ツアーで、当地で歴史的建造物を保存運動を行っている様子を見て、参加者が大きな刺激を受けた。それがきっかけとなって「全国のヴォーリス・ファンとともに、ヴォーリス建築が語りかけるものを後生に残していこう」と、市民が主体となったヴォーリス建築の保存・再生活動を開始した。

●活動地域図



●これまでの活動

近江八幡市にはW. Mヴォーリズが残した約 30 棟の洋風建築が残っている。その中で当会が保存・再生に特に力をいれているのがヴォーリズ建築の名作と言われる旧八幡郵便局（大正 10 年築）。長く空家になっていたものを、活動の拠点として修復・再生しようとしている。また、ヴォーリズ建築のための調査・コンサルティング、ネットワークづくりを行っている。

①旧八幡郵便局の保存・再生

修復には、数千万の費用がかかるといわれているため、ゆっくりだが少しずつ行っている。1999 年に敷地内中庭の復元整備を行った。ここでヴォーリズに関わる展示や講演（ヴォーリズ・サロン）等を開催している。

②ヴォーリズ建築の保存・再生のための調査・コンサルティング

滋賀県を中心に、各地の調査やコンサルティング（改修や活用の提案）を実施している。県の委託調査のほか、近隣の市町や諸団体、企業などからの依頼もある。

③全国のヴォーリズ・ファンのためのネットワークの構築

調査やコンサルティングを通してのネットワークづくり、ホームページや会報による情報発信、各地のまちづくりNPOとの交流などを実施している。また、最近では各地からの視察受け入れの依頼も増えている。



旧八幡郵便局



ヴォーリズサロン



中庭の整備を終えて



「よこはま洋館付き住宅を考える会」との交流会

●助成対象活動

情報発信基盤を充実させるためのパンフレット（1000部）、パネル（A2サイズ×4枚）、ホームページを作成した。

●これからの予定

- ・2005年のヴォーリズ来日100周年のアニバーサリー企画を予定。
- ・旧郵便局のファサードの復元とトイレの新設。
- ・情報発信力の強化と会員の増加